

エプクルーサ®配合錠と アミオダロン製剤との併用について

併用時のリスク

エプクルーサ®配合錠と不整脈治療剤であるアミオダロンを併用すると、徐脈などの不整脈があらわれる可能性があります。

心疾患または重い肝疾患がある場合やβ受容体遮断薬と呼ばれる、血圧を下げたり、不整脈の治療に用いられる薬剤を使用している場合は、エプクルーサ®配合錠に含まれるソホスブビルという有効成分を含むお薬とアミオダロンを併用することで不整脈の危険性が増すことが報告されています。

エプクルーサ®配合錠の使用にあたっては、アミオダロンを過去に使用していた患者さん、現在使用中の患者さん、または今後使用を予定している患者さんでは、ご自身あるいはご家族の方からアミオダロン服用のことをご担当の医師または薬剤師に告げて十分に説明を受けてください。

エプクルーサ®配合錠とアミオダロンを併用する場合は少なくとも併用開始後3日間は入院し、副作用の発現に注意するため適切に心電図検査を受ける必要があります。退院後も少なくとも2週間は患者さんご自身、またはご家族の方が脈拍を毎日確認する必要があります。

アミオダロン製剤の 製品名

アンカロン錠 100

アンカロン注 150

アミオダロン塩酸塩速崩錠 50mg 「TE」

アミオダロン塩酸塩速崩錠 100mg 「TE」

アミオダロン塩酸塩錠 100mg 「サワイ」

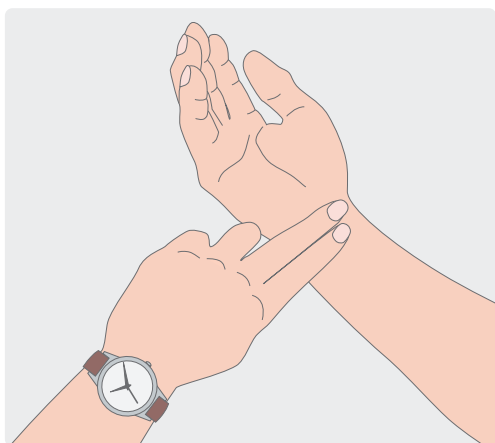
アミオダロン塩酸塩錠 100mg 「サンド」

アミオダロン塩酸塩錠 100mg 「トーフ」

アミオダロン塩酸塩静注 150mg 「TE」

アミオダロン併用の際の注意事項

エプクルーサ® 配合錠とアミオダロンを併用する場合、医師から指示された期間の入院をする必要があります。通常は併用開始後3日間の入院が必要ですが、病状によりその期間は延長されることがあります。また、退院後も、医師から指示された期間中、患者さんご自身、または家族の方が脈拍を毎日確認してください。退院時に医師から患者さんの安静時脈拍数をお伝えしますので、脈拍に異常（脈が遅くなる、脈がとぶ等）がある場合は、ただちに医師に連絡してください。一般的な脈拍数の測定方法を以下に示しますが、ご自身またはご家族の方で測定が難しい場合は、機器などを用いる方法もありますので、ご担当の医師に相談してください。



脈拍数の測定方法の一例

座ったり横になって少なくとも5分間安静にしたのち、人差し指及び中指をもう一方の手首の親指の付け根あたりの動脈に沿うようにあてて測定します。周辺を少しずつ動かしながら拍動を感じる場所を探し、時計を見ながら10秒間回数を数えます。

次の計算式からあなたの1分間あたりの脈拍数を計算します。

$$10\text{秒間の脈拍回数} \times 6 = \text{あなたの1分間あたりの脈拍数}$$

脈拍の異常以外にも、失神、めまい、ふらつき、からだがだるい、脱力感、極度に疲れやすい、息切れ、胸の痛み、意識が乱れる、物忘れなども、不整脈に関連する徴候または症状としてあらわれる可能性があります。これらの症状がみられた場合は、ただちにご担当の医師に連絡してください。

医療機関名

製造販売元

ギリアド・サイエンシズ株式会社

〒100-6616 東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー 16階

<http://www.gilead.co.jp/>

EPC19SW0040PH
2019年2月作成